

これまでの取組報告

～住民一人ひとりが地域に関わり未来に携わるために～

西条市企画情報部地域振興課

多様化・複雑化する社会的課題

気候変動

頻発する災害

環境汚染

水問題

メディア・ネット
リテラシー

耕作放棄地

ゴミ問題

いじめ

子育ての孤立化

老々介護

虐待・暴力

交通弱者・
買物難民

人口減少

所得格差

ニート

後継者
問題

地域医療・介護

食の安全

ワーキングプア

食品ロス

ハラスメント

生活習慣病

年金

従来行政や企業、NPO等が個別で行って
きた支援・サービスにも限界が…

「社会的課題」

例えば…

ALS...筋萎縮性側索硬化症

ALS(筋萎縮性側索硬化症)とは？

全身の筋肉が萎縮し、意識ははっきりしているのに、身体が徐々に動かなくなっていき、ついには瞼さえ開けなくなる難病。

ALSは、誰しもが発症する可能性があるが、現在治療法や原因は残念ながら明らかになっていない。

発症確率はおおよそ10万人に1人の割合。

「ALSアイスバケツチャレンジ」2014年
(ALS理解促進チャリティキャンペーン)

…オバマ、ケネディー家、ジャスティン・ティンバーレーク、ビル・ゲイツなど著名人が続々と参加し話題に。



参考：一般社団法人END ALS <https://end-als.com/>

一般財団法人ジャスト・ギビング・ジャパン <http://alschallenge.justgiving.jp/>

私の体験から

地域の医療・
介護体制

入手可能な情報

相談体制

家族の
介護負担

医療人材
の不足

経済的問題

精神的不安
・感情面

ライフスタ
イルの変化

各個人が納得いく自由な「選択」が出来る
のか？

これら様々な社会的要因から、真に望む
暮らしが出来ていない人がいるのでは？

一つの団体・人だけでのアプローチでは、解決できない。

当事者・家族・行政・医療機関・介護事業所・NPO・企業・地域コミュニティ…
さまざまな機関が関与して、課題の解決にあたる必要がある。

ローカルファンドとは？

≡ふるさと基金、コミュニティ財団

市民が中心になり資金を出し合って設立する財団。
企業財団やプライベート財団とは異なる。

自分たちが直面している問題を解決するために、自分たちでお金を出し合い、その志あるお金の活用を自ら主体的に決めていくもの。
言わば、「市民みんなのお財布」「地域による地域のための財団」ともいえるもの。

▼全国のコミュニティ財団



公益財団法人 京都地域創造基金
(京都府)



公益財団法人 東近江三方よし基金
(滋賀県東近江市)



公益財団法人 みんなでつくる財団おかやま
(岡山県)



公益財団法人 佐賀未来創造基金
(佐賀県)



公益財団法人 みらいファンド沖縄
(沖縄県)



公益財団法人 地域創造基金さなぶり
(宮城県仙台市)

などなど・・・

(一社)全国コミュニティ財団協会に加盟している財団及びその準備組織は31組織。
(協会ホームページより。H31.1.25時点)

ローカルファンドで目指すところ

課題を個別に考えるのではなく俯瞰的にとらえ、構造から分析し、解決に向けた情報の共有に加え、解決に向けた取り組みに対する資金調達や人的な支援を行うためのシステム構築を目指すもの

①資金

課題解決のための活動資金
補助金等に頼らざるを得ない

現
状

個別の資金負担を軽減し、
協働・「お互い様」の心で活動に
取り組みやすく

②人の関わり

限られた人・団体が課題の解決に
取り組んでいる

誰もが地域の課題を認知でき、
あらゆる人の対話・協働
活動や応援の意味を実感し、
実行・応援しやすく多様な主体
がかかわりを持つ

➡ 将来の世代まで続く安心感ある社会をつくるために

他地域の事例

～公益財団法人みんなでつくる財団おかやま～



課題を把握



- 地域の現状調査
- 当事者や支援へのヒアリング
- 問題構造の分析と原因把握

解決策を構築



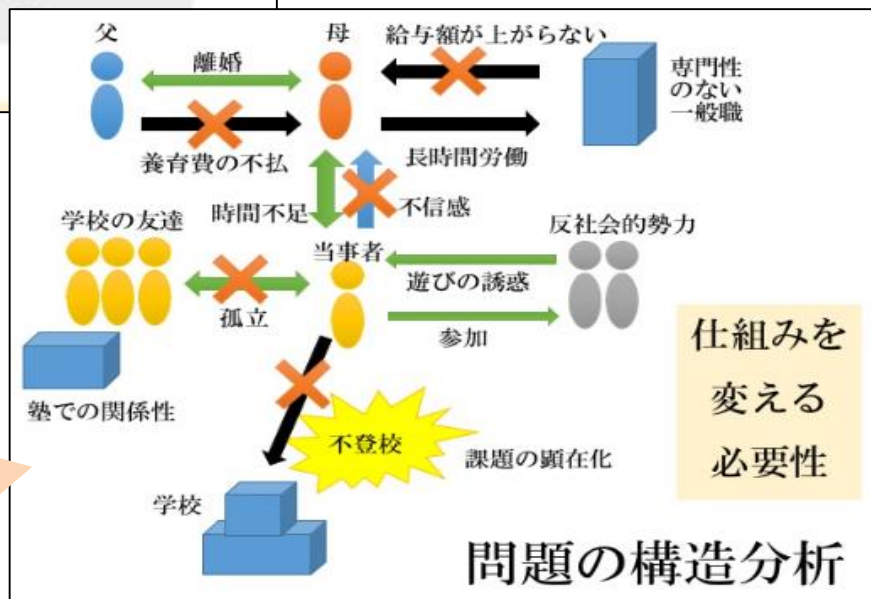
- 分析に基づく解決のしくみ構築
- 多様な地域資源の巻き込み(円卓会議)
- ビジョンと目標の決定

資金を核とした支援実行



- 寄付募集・助成実行
- 応援・参加の促進
- 誰もが関われる機会
- 評価・改善

一例：不登校
親子の関係性、親の労働状況、友人との関係性、地域コミュニティ…
一つの問題だけではない



実際に行われている事業の例

▼冠基金事業

…このほかにもさまざまあります



● テーマ「子ども」

J基金	
助成分野	貧困・子どもたちの育ちの環境（団体経営基盤強化）
助成総額	700,000円（一件あたり70万円まで）
設置者	福武 純子
設置者の意向	少子高齢化が進む中で、セーフティーネット、子どもの居場所づくり、里子支援など、未来ある子どもたちが安心して暮らせる環境づくりを行なっている団体にご活用していただきたいです。

▼事業指定助成プログラム（地域版クラウドファンディング）

▼7月豪雨災害での被災地支援寄附基金

プロジェクトを
進んで支援！ 第12期

みんなの地域版
CROWD FUNDING
クラウドファンディング

割り勘で
夢を
かなえよう！
事業指定助成プログラム

寄付受付中！

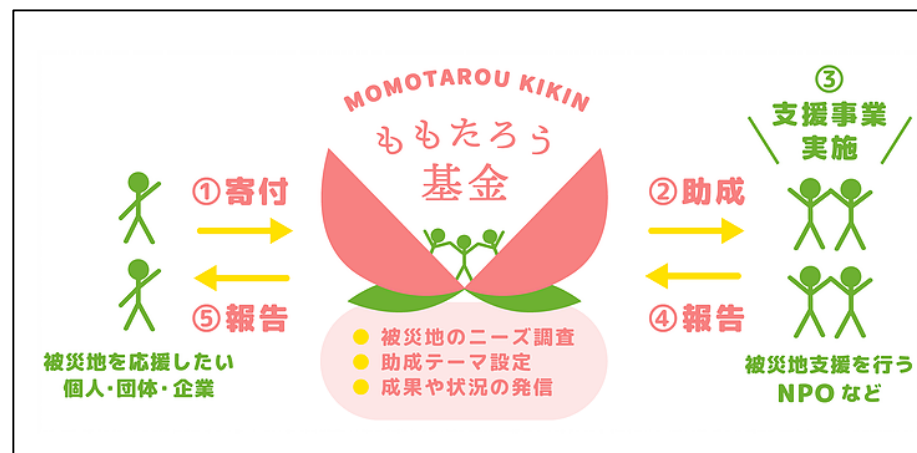
① 見つける ② 寄付で応援 ③ プロジェクト実施

神坂路 1,530,000円

十年住宅 450,000円

備中神楽 500,000円

ス認証
ライセンス取



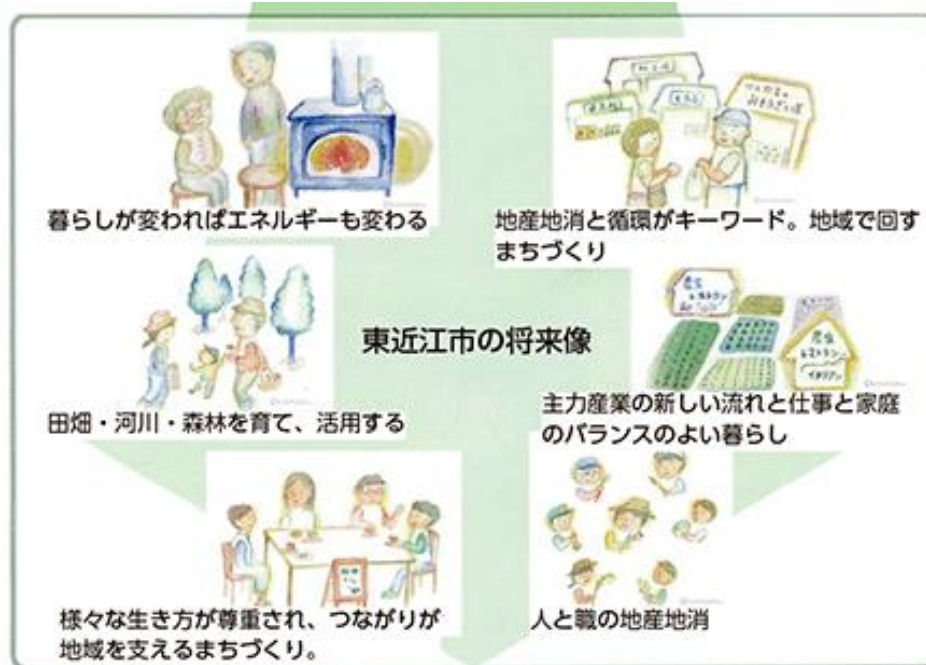
他地域の事例

～公益財団法人 東近江三方よし基金～



- 住民による地域の将来像の共有から、基金の必要性が生まれた
- 地域のあるべき姿の実現のために、基金が資金調達の仕組みづくりや情報収集・分析、課題の共有や協働の取組を実践中

▼参考 公益財団法人 東近江三方よし基金が目指す将来像のイメージ

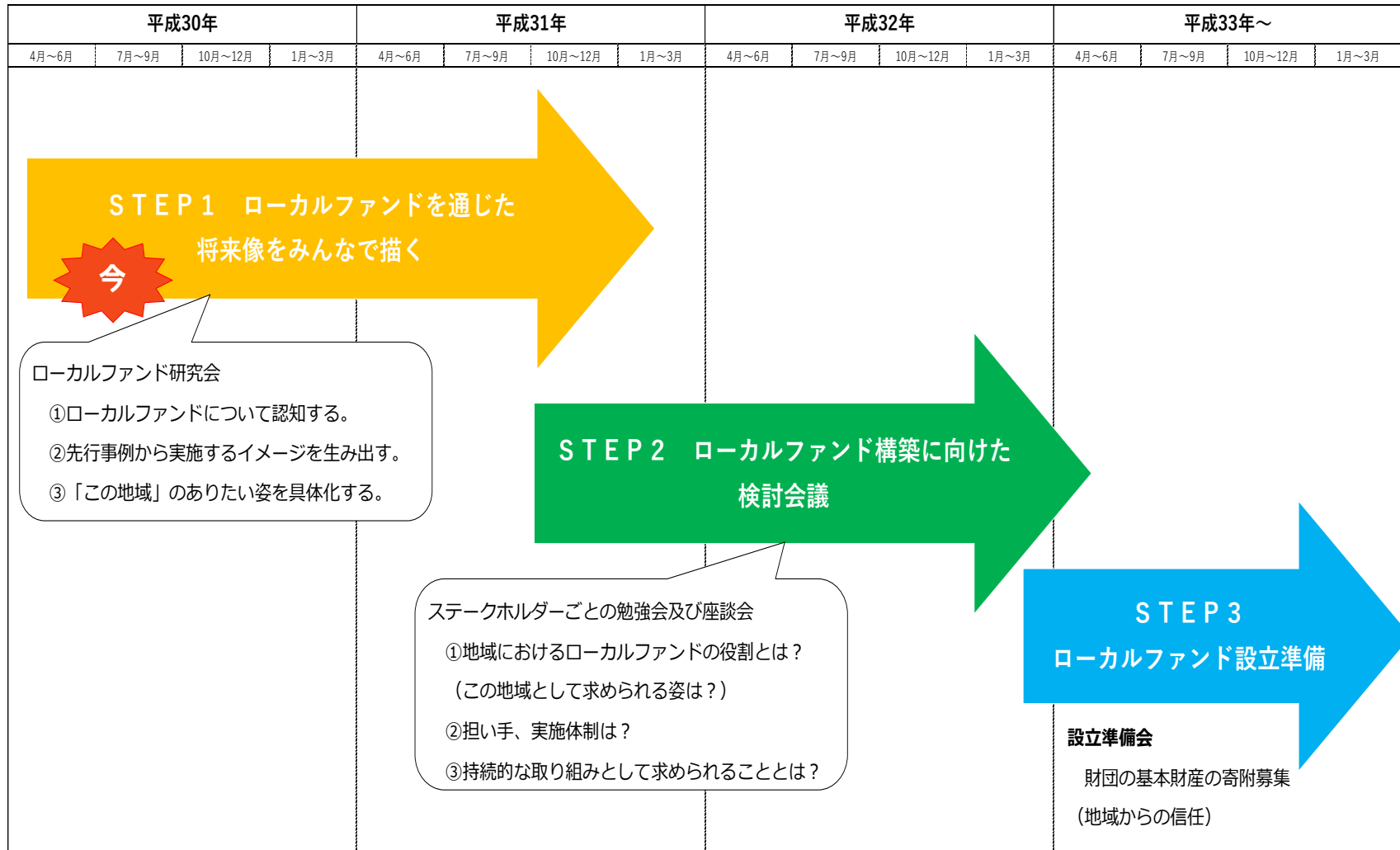


資料：東近江市

⇒設立の前に、まずは目指すべき地域の将来像をイメージすること

ローカルファンド(財団)設立に向けたロードマップ

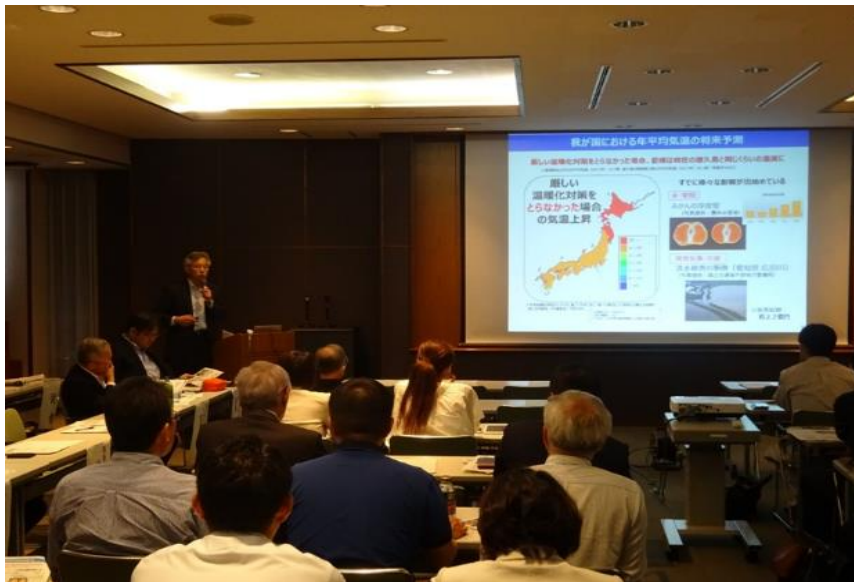
～住民一人ひとりが地域に関わり、未来に携わるための場づくり～



設
立

設立のために踏むべきと考えている、あくまで想定 of ステップです。
実際には、様々な形での対話から、この地域にとって何がどのような形で必要なのか、考えていきます。

第1回ローカルファンド研究会 H30年5月 ～総論・SIBの活用意義～



第2回ローカルファンド研究会 H30年8月 ～空き家を活用したまちづくり 三津浜・横浜の事例から～



第3回ローカルファンド研究会 H30年10月 ～地域包括ケア 誰もが住み慣れた環境で 安心して暮らし続けられる社会へ～

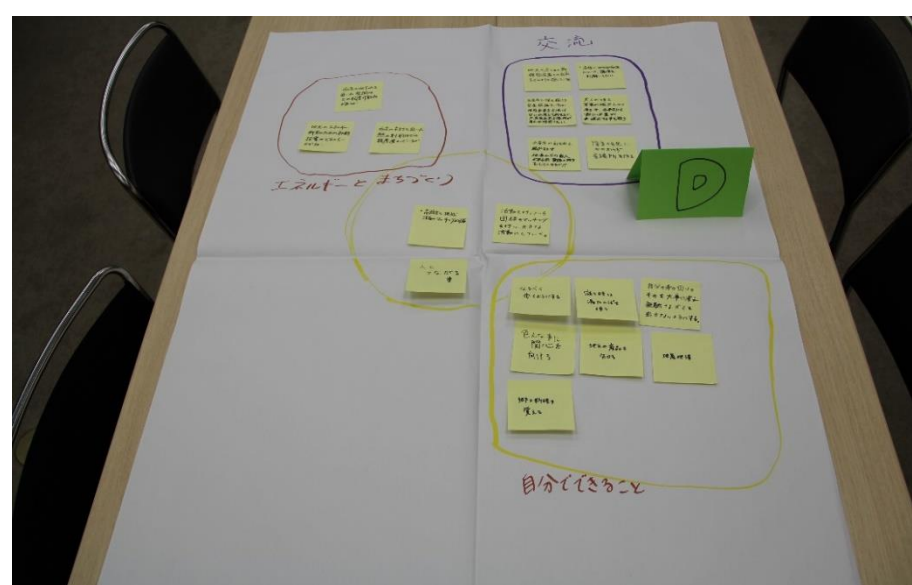
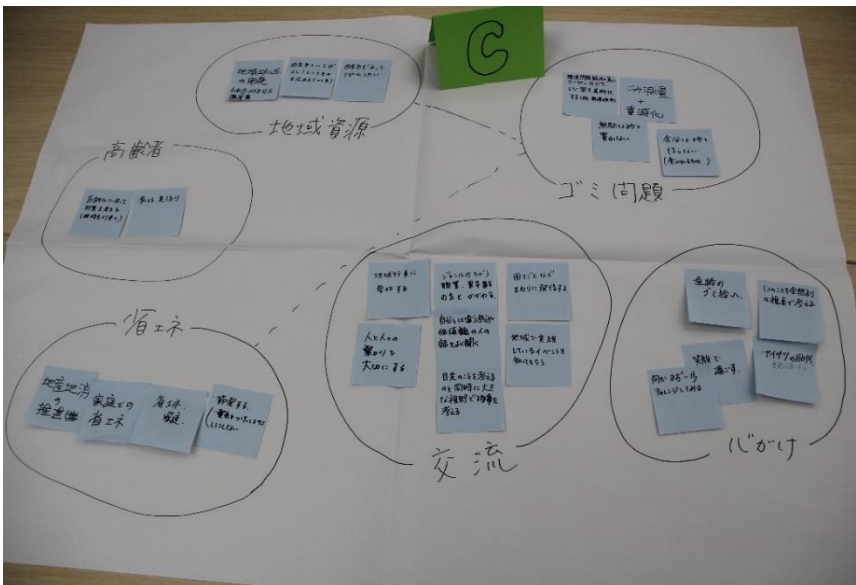
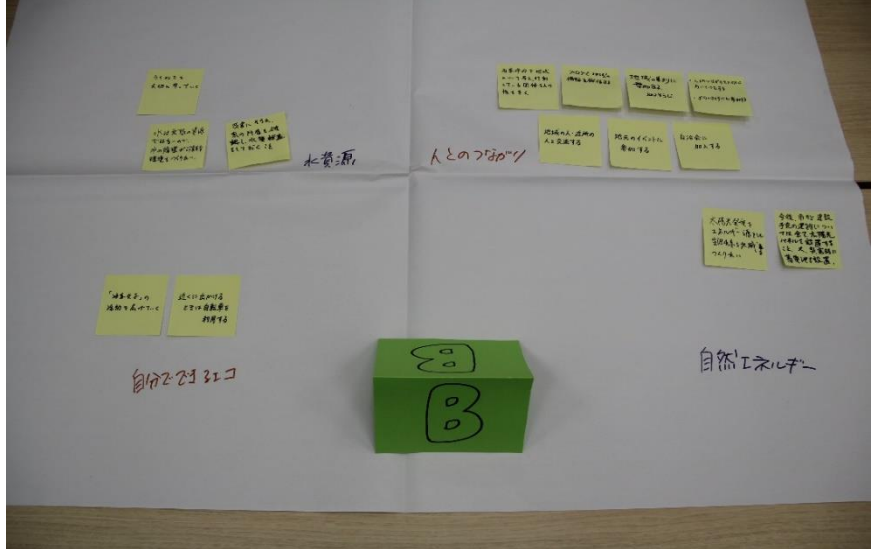
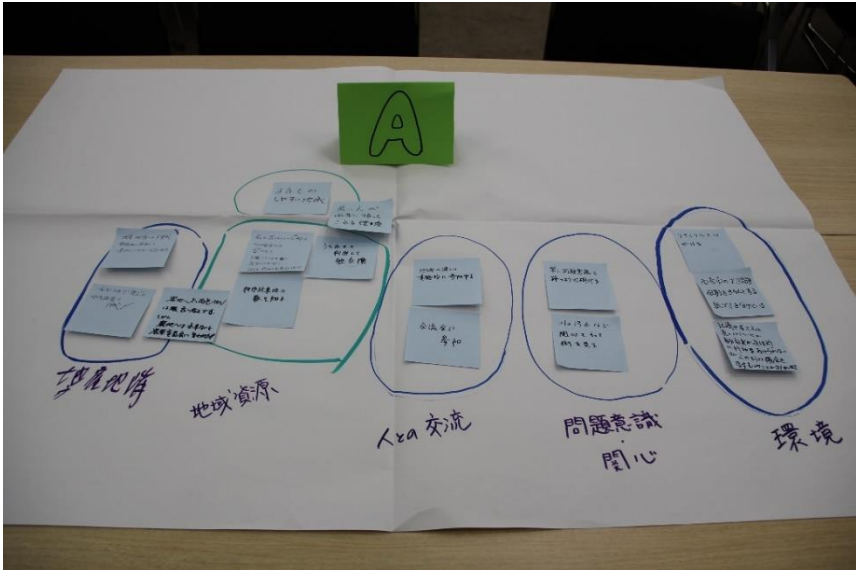


第4回ローカルファンド研究会 H30年11月 ～エネルギーによる地域の自立・循環～



第4回ローカルファンド研究会 H30年11月

～意見交換～



第4回ローカルファンド研究会 H30年11月

～意見交換～

